

報道関係各位

2012年1月6日

代表取締役社長 井出 健義の従業員への年頭あいさつ要旨

新年明けましておめでとうございます。

本日の弊社仕事始め式での代表取締役社長 井出 健義の年頭あいさつ要旨をご案内申し上げます。

本年の市場環境は、明るい期待材料と暗い不安材料が3対7ぐらいの割合で混在して、その綱引きに一喜一憂していく1年になると捉えています。

輸入車販売の動向は、「大きな事件・変化が起こらない」との前提で、現在の増勢が続き、昨年20万台まで回復した純輸入車販売台数が、本年は固く見て21万~22万台に達すると予想しています。この2~3年の間に、200万~300万円台の低価格で環境対応と燃費に優れた新型小型車の投入が続き、輸入車購買層のすそ野は広がっています。本年も魅力ある新商品の発売が予定されており、また、4月以降もエコカー減税が形を変えて残ることは、フォローの風になると見えています。

このように輸入車市場は復調傾向にあり、それに伴って当社の経営状況も上向きつつあります。しかし、周囲の政治経済情勢は、何が起きるか分からない不透明な厳しい状況が続いています。そのため、本年の当社経営の舵取りとしては、こうした状況を前提に、諸事すべての対応や計画を慎重に進め、引き続き「筋肉質経営・身の丈経営」を目指します。ただし、就任時のメッセージでも強調したとおり、“より良い会社”に向けての「攻め」と「成長の種蒔き」には積極的に取り組む方針です。

少子高齢化の成熟社会における自動車小売事業は、“保有回転型産業”であり、それを可能にするのは、「ディーラーに対するお客さまの信頼と支持」に尽きるといわれています。当社には、顧客資産という大きな財産があります。「CSとESの充実・強化」を経営の軸とし、「お客さまへの感謝の気持ちを込めたきめ細かいサービス」を提供し、お客さまに満足して頂くとともに、それを実現していく「社員自身の能力・喜びを高めること」も重視していきます。

中期経営計画のタイトルでもある「TRANSFORM」(変革・変身)は、考え方の改革なしには実現できないものです。社員全員が問題・課題を認識して、自主的に解決・対応に取り組むことで、初めて実現されます。“より良い会社”になるための“流れ”を皆で作りましょう。やるべきことをやり、前に進んで行けば、必ず結果はついてくると確信しています。